

11月29日(木) 午前8時 学年別 持久走大会 学級懇談会



美咲野小だより

11月

NO.12
H30. 11. 27
大津町立
美咲野小学校
文責：草場ルミ子

前号(裏面)で、人権教育の公開授業について書きました。学級便りや学年便りにも人権教育の授業について詳しく書いてありました。この季節、学校では、絵画展に向けて絵を描いたり、音楽会や学習発表会に向けて合奏したり歌ったり、持久走大会に向けてフレッシュタイムに全校ジョギングで走ったり、充実した毎日を過ごしています。子どもたちが頑張っていることや楽しいこともたくさんあります。



でも、たくさんのトラブルや友達の心ない言動で傷ついている子どもも多くいます。学校は、小さな社会です。たくさんの子どもたちが生活する場ですから、楽しいこともいやなこともあるのは当然。ケンカがいけないと言っているのではありません。

ある本に「差別意識や偏見は、誰もがもってしまう意識。噂話に同調したことがないとか、陰口や悪口を言ったことがないとかいう人は珍しいでしょう。持ってしまうからダメだといふのではなく、持ってしまったとき、やっぱおかしいよね。それっていかんよね。と自分自身が気づいて、いじめや差別をなくしていきたいと思うこと、そんな生き方したいよねと思うことが大切」と書いてありました。私も全く同感です。具体的な場面でいうと、学校では、こんなことがあります。

- ケンカをして相手を傷つける最後の捨て台詞として「障がい者！」「○○のくせに！」と言う。しかも意味もよく分からずに使う。
- 「あの水道は、○○さんが使った水道だけ使わん方がいいよ。」と誰かが言い出し、誰もやめずに「おかしいよ」も言わずに長い間たくさんの子どもたちの間で続いていく。

- 誰かがさわったものを汚いなどと言ってタッチまわしする。回された子は深く考えずに次の人に回す。周りではやし立てる。つい乗ってしまう。おかしいと思ったけど、注意しようと思ったけど、自分がされるようになるかもしれないから、注意できない。
- ある子がしたら何にも言わないのに、同じ事を別のある子がしたら、文句を言う。



上記のようなことは、美咲野小だけでなく、いろんなところで起こっています。大人の社会でもあるのではないのでしょうか。そんなときどうしたらいいのかわからない「気付く力(感性)」「言葉でおかしいと伝える力」「みんなでおかしいことはおかしいと言っていく力」などを子どもたちに育てなければなりません。学校だけでなく、お家でも同じ考えで子どもたちを育てていかなければ、そんな感性は育ちません。学級懇談では、そんなことも話題にしてもらえたらいいなと思っています。みんなで考えていきましょう。「うちの子だけでなく、地域の子どもは、よその子でも、地域みんなで育てていく」そんな美咲野小学校区になりたいと切に思います。

学級懇談会にもたくさん来て下さいね。

第5条

～我慢する力～
肥後っ子の
あすを支えるがまん力
～くまもと家庭教育10か条より～

知ること、伝えることから始めよう。
となりの人のきもち、わたしのきもち。
～H29年度 熊本県人権メッセージ作品集より～

子どもたちの荷物について



子どもたちのランドセルやその他の学習用具が重すぎるのが、話題に上っています。11/22に学年便りや学校からの便りでもその対応について、お伝えしたところです。

子どもたちに、なるべく負担がかからないように配慮していますが、本校は児童数・学級数が増え、教室も足りない状況にあります。子どもたちの荷物を置く場所も不足しています。今後、棚を購入するなど工夫していく方向で準備していますので、ご了承下さい。

体育の時間

体育の時間は、どの学年も持久走大会に向けての練習です。距離は、学年によって違いますが、運動場を走って、敷地外周を走り、運動場でゴールします。また、フレッシュタイム2時間目と3時間目の間の休み時間は、全校で運動場のトラックや外周を走っています。聞くところによると、本校では、一〇位以内に入ったら、◇◇を買ってやる!などの話であふれているそうです。そのお気持ちも分かりますが、お家の方も一緒にいご飯を作るとか、早く寝て体調を整えるよう声をかけるとか、お家の方も一緒に練習するとか、結果だけではなく、子どもたちにも、もつと、頑張れるのではないかと思います。応援、お待ちしております。

